

## ■隊員紹介

○藤本謙治（当時、文理学部国際関係課程2年、20歳）

この計画の言いだしっぺであり、リーダーでもある。探検部入部当初から「野田知佑みたい  
にユーコン河下りたい！」と強烈に自分をアピールをしていた。野田やユーコン河のことは知  
っていたが、まさか自分がそこを下れるなどとは思ってもしなかった児玉を探検部に入部させ  
た男。

ユーコンでは釣り、インディアンとの交流等、とかく単調になりがちなユーコンに意義を見  
出し、ストックに追求し続けたが、その日暮らしの児玉に足を引っ張られ、なかなか成果を  
得られなかった。その割には川下りをしながら大学のレポートをしていたりもしたが…。

中古で買った藤本のカヌーは、後半、毎日必ず浸水し藤本は晴れても下半身びしょびしょだ  
った。本当によく最後まで下れたと思う。

とにかく、藤本の意気込みは計画書の冒頭に「日本が失いかけている何かを掴むために、旅  
に出ます」と熱く記されている。

## ■日程表

- |         |                           |                |
|---------|---------------------------|----------------|
| 7/11    | 成田-Los Angeles            | Los Angeles 観光 |
| 12      | Los Angeles-Vancouver     |                |
| 13      | Vancouver 観光              |                |
| 14      | Vancouver-Whitehorse      |                |
| 15 ~ 18 | Whitehorseにて出発準備、観光       |                |
| 19      | Whitehorse 出発             |                |
|         | 初日より熊に悩まされる               |                |
|         | 魔の Lake Labeege           |                |
| 28      | Carmacks 着                |                |
|         | 買い出し、インディアンにカツアゲされそうになる   |                |
| 31      | Carmacks 発                |                |
|         | Five Finger Rapid 通過      | 藤本沈            |
|         | ムースの親子と対面                 |                |
| 8/8     | Dowson 着                  |                |
|         | 買い出し、カジノで大儲け、たくさんの日本人と出会う |                |
| 13      | 藤本 Dowson 発               |                |
| 15      | 児玉 Dowson 発               |                |
| 17      | Canada-U.S.A 国境通過         |                |

18	Eagle 着
	買い出し、イミグレーション
19	Eagle 発
26	Circle 着
	買い出し
28	Circle 発
	Yukon Flat
	北極圏を越える
30	Fort Yukon 着
9/ 1	Fort Yukon-Fairbanks (Air Taxi)
3	Fairbanks-Anchorage (アラスカ鉄道)
6	Anchorage-Seattle

## ■食糧

食糧は食料品店のある街で次の街までに日数を概算して買い出しをしてまかになった。主食となったのはやはり米。ついで重宝したのがインスタントヌードル。副食は手に入った食材を様々な工夫して調理した。街までの途中で食糧が足りなくなることはなかったが、行動食が慢性的にいつも不足していた。

## ■医療

医療は、外傷以外にはほとんど使用しなかった。ごくたまに感冒薬や解熱剤を服用することはあったが、風邪の前兆に服用して予防するというような使用だったので、本格的な風邪等はひかなかった。体の不調に応じてビタミン剤は効果があった。

## ■サバイバル

計画時はなんだか漠然と「サバイバル！」と言っては意気込んでいたが、魚は釣れず、食糧のほとんどを買い出しによってまかっていたし、たき火ができないときにはバーナーやヘッドランプがあったし、そしてなによりテントで雨風をしのいでいたので、サバイバルと銘打つような行動はほとんどなかった。あえて言えば熊から逃れ生活することが唯一にして最大のサバイバルであった。

## ■ユーコン河下りの概略

カヌーの楽しみ方には、カヤックで激流を下る、シーカヤックで海を渡るなどいくつかの方法がある。今回のユーコン河下りはリバーツーリングと呼ばれているカヌーの楽しみ方の一つである。

積載量のあるカヌーに食糧、テント等の生活道具一式を積み込み、途中の河原でキャンプを

しながら、何日もかけて川を下る。最低限の危機回避のためのカナコントロールと野外生活ができれば誰でも簡単にツーリングを楽しめる。しゃかりきにこがなくても河はゆつくりと違う土地に僕らを運んでくれる。移りゆく景色と広い空を川面から低い視線で眺めながら流れるリバーツーリングはその名の通り多分に旅の要素が強い。

車で移動できる人たちは、オープンカーなどの大きなカナを車に積んでスタート地点まで行き、ゴールしたら交通機関を使って車までもどり、車でカナを取りにくるという方法がとれる。

車をもたない僕らは分解すると一つのザックに収まってしまうフォールディングカナという組立式のカナをそれぞれ購入し、日本から野外生活用品と共に持ち込んだ。しかし、旅である以上荷はできるだけ軽い方がいい。

ユーン川はリバーツーリングのメッカだけあって、スタート地点によく選ばれるホワイトホースにはドーンで乗り捨てられるレンタルカナがあったり、また現地であくカナを購入してゴールしたら誰かに売るといった方法をとっている人もいた。

僕はユーン川下りを終えたあと、少しの間カナダ、アメリカをまわるためにアンカレッジから日本にいらぬ荷を送り返したが、フォールディングカナを送り返すにはかなりの金額を支払わなければならないかった。児玉はそれでも大金をはたいてカナを送ったが、藤本はカナを背負ってカナダ、アメリカをまわった。

2人は、次回のユーン川には2度とカナを日本から持ち込むようなことはしないと心に誓

った。

### ■生活方法

食糧の買い出しが出来るの街は限られているので次の街までだいたい何日ぐらいかかりそうかを想定して食糧を買う。今回は最大1週間分の食糧を積み込んで移動をした。

流木が豊富なので基本的にはたき火ですべて調理した。雨の日に限ってテント内でバーナーで調理する。バーナーは白ガスが現地で手に入らないことも考え、ガソリンが使えるものを日本で購入して使用した。実際には、キャンプの際は熊対策として食糧やカナから距離をおいてテントを張った。

これは川岸のときはもちろんだが、熊は河を泳いで渡れることも考慮に入れ、完全な中州にキャンプするときもそうした。熊対策としてはベアバンガーという大きな爆竹のようなものを購入して、寝るときには必ず枕元に置いて寝た。(児玉)

### ■全体総括

なにをいまさら、である。あれからもう7年以上も経ってしまった。この文集に幻と成りつつあった報告書(もどき)を掲載するにあたって、当時の準備合宿の計画書、報告書、ユーン川の計画書、フィールドノートを読み返すと一瞬にして当時の自分に戻ってしまう。

楽しかった。

7年も経ちユーコンを振り返るとき、ユーコンを終えた直後のそれとはまた違ったものになってしまふ。ユーコンを終えた直後自分がどんな総括をしたのかすら忘却の彼方にある。報告書の作成を怠ったことを今さらながらに後悔してしまふ。

ユーコンに漠然と求めていた自然、生活力、旅、自分自身を鍛えるというものが今はつきりどういふものかわかるような気がする。自分は藤本ほどストイックに野生というものを追求しなかったが、やはりユーコンはタフな経験だったと思う。

最近ではテレビでも紹介されるようになり、ユーコンは依然として聖地ではあるが、もはや開拓地ではない。というか、僕らが下ったときにもすでに開拓地ではなかった。

そういう意味ではユーコン河下りはパイオニアワークではない。川下り専用の詳細な地図もあれば、先駆者たちの経験も活字になっている。最低限のマニュアルに従って行えば、未知の危険はまずない。

そこにあるのは、客観的な探検ではなく、極めて私的で内的な行為だと思う。

家財道具一式を積んで街から街へ流れる放浪。決してしゃかりきに漕ぐのではなく、かといつて流されるといふ感覚でなく、確実に自分たちの意志で『流れる』。そこで求められてくるのはパドリングを続ける体力でもなく、パドリングの正確さでもない。生活し続ける精神的タフさだ。単調になりがちな生活。大きすぎて自分に跳ね返ってこない自然。そのなかであまりにも小さく、無力な自分。そのなかで自然に溶け込みながら、放浪そのものを楽しめる精神的タフさ。異世界での放浪体験。異世界での生活体験。突然こういう異世界に放り込まれたときに

果たして自分が生きていけるのか？を自分に課した旅だったと思う。正直なところあの頃の自分分はしがらみや呪縛が少なかった。だからユーコンという異世界がさほど異質に感じられず、むしろすんなりユーコンを体験してしまった気がする。今思うともったいない、もっとユーコンを満喫できたらうに…、なんて思うのはやはり自分がそういう世界からかけ離れてしまった証拠なのだ。

昨年産まれた息子と、いつか続きを下りたい。今はそれをささやかな夢として胸にしまっておこう。ユーコンはもうしばらくは待っていてくれると思う。

#### ■行動記録

7/19

いよいよ出発の日。小雨。Whitehorseでお世話になったKeikoとTomが見送りに来てくれる。2人は近々結婚することと結婚祝いを渡す。パッキングに手間取り16:00雨の中を出発。20:30に手頃な天場を見つけてテントを張り、釣りを始めるが藤本が子熊らしきものを見かけたので、22:30撤収。30〜40分こいで新たに天場を見つめる。雨のため気が湿っていて焚き火ができず。食糧をテントから離して寝る。

7/20

12:30起床。雨が降ったりやんだりなので、今日は停滞。

17:00。雨が少しおさまった頃、藤本がかなり大きい動物の糞をみつけた。熊のものかどうか判断しかねたのでキャンプ地を変えることに決めた。19:15 出発。

21:15 Egg Island 着。キャンプには最適な砂地だ。

またしても何かの足跡を見つけたが熊ではないということとで食糧とカヌーをテントから離してキャンプ。25:00 夕食。26:00 就寝。一晚中テントの外で何か歩く物音がしたので、ベアバナーを握りしめて寝る。

7/21

11:45 起床。久々の快晴。13:00 朝食。15:45 出発。パドリングしなくてもかなりのスピードで流れていく。19:00 LAKE LABERGE 突入。マニユアル通り右岸を進む。湖なので流れが全くなく、だるいパドリングが続く。20:50 上陸、キャンプ。乾いた流木がたくさんありたき火には困らない。20:50 の夕焼けがとてもきれい。

7/22

11:00 起床。曇り。時折雨がパラつく。朝食をとった後、準備をしながら天候をうかがう。14:15 出発。出発してすぐ風が強くなり、波が立ち始める。体は木の葉のように激しく揺られる。スプレーカバーをし、パドリングしながら波をやり過ぎしつ進む。そうしないと波に押されて岸に乗り上げてしまう。だんだん風も波も激しくなり、あわや沈かというような高波にもまれ

て上半身もびしょぬれ。18:00 気を抜いたすきに岸に打ち上げられてしまう。底をすって艇も傷ついてしまう。艇を降りて岸に引き上げる間に打ちつける波で艇の中もびしょぬれになってしまう。

とても再出発できるような状態ではなかったのでそこを天場と決めて、後からきた藤本にもそこにつけてもらう。藤本も全身びしょぬれだった。ぬれた服を干し、カヌーを修理して夕食。強風の中藤本はコンタクトを片方飛ばしてしまった。

7/23

10:00 起床。風はなく、湖はないでいるが、空はあいかわらずどんよりしているのといつまた風が出るかわからない。急いで朝食をとり、13:00 出発。14:30 ころからまた風が出始めたが昨日ほどではない。途中から自分たちがどこにいるかわからなくなってしまうが、支流を目安に場所の見当をつけ、ここまでくれば明日は湖を出られるだろうというところで上陸キャンプ。20:00。一日こぎ続けると非常に疲れる。

7/24

10:30 起床。朝食を食べていると白人のおっさんが乗った4艇のファルトが下っていった。13:15 出発。15:00 ころようやく終わりが見えてくる。出口付近でオーブンカヤックの白人と出会った。彼は LAKE LABERGE を "One & half day" で抜けたと言う。どこからこの差が生まれて

くるのだろうか？ 16:00 Lower Labege。ようやく LAKE LABERGE を抜ける。Lower Labege は無人の廃墟。カヌーイストのキャンプ地になっているようだ。

再出発。流れがあることの良さを改めて実感。スピード感が全然違う。LAKE LABERGE があまりに大きかったのでまるで小川にいるようだ。ところどころに2級ぐらいの瀬があり、とても気持ちがいい。途中3人のドイツ人がオープンで下っているのに出会う。20:20 17 miles woodyard。この頃から流れがさらに速くなり、魚がはねたりするようになったので、竿を出してときどき振るが、根がかりばかりなのであきらめる。21:00 上陸。25:30 寝る。

7/25

11:30 起床。パッキング中に4人組、3人組、1人に抜かされる。14:00 出発。まもなく男女2人組のオープンにも抜かれる。おれらのカヌーが重いのが原因のようだ。16:00 ころ4人のドイツ人のおっさんたちが大きなパイクを釣り上げてうれしそうに写真を撮っていたので、おれらも奮起して上陸。竿を振るが、根がかりばかりで今回も獲物なし。再出発してすぐ Str... という廃船を見学していく。

20:30 上陸。

7/26

13:45 起床。寝過ぎす。急いでパッキングして出発。今日もパッキングをしていると4組の

カヌーイストに抜かれる。Big Sammen などを抜け、18:30 ころから天場を探し始める。と流れている対岸の崖が見事に崩れ落ちものすごい砂煙と波が立つ。河の反対側を下っていたらきつと死んでいただろうと思うとぞっとする。いくつか天場を物色するがなかなかよい天場が見つからず、そうこうするうちに雨も降り始めたので適当に上陸。熊らしき大きな足跡を発見したが、対策をきちんととれば大丈夫だろうということで、夕食後、残飯を燃やし、食糧をテントから遠ざけ、ベアバンガーとアックスを握りしめて寝る。

7/27

8:30 起床。雨。11:30 雨がやんだので起き、朝食をつくって食べる。パッキングをしているといきなりどしゃぶりの雨。まだたんでいなかった藤本のテントに逃げ込む。一向に雨がやむ気配がないので再び自分のテントを張り、停滞を決め込む。

17:30 雨がやむ。一刻も早くこの地を離れたかったので出発することにする。18:30 出発。

21:00 上陸。

7/28

10:30 起床。13:30 出発。だんだん天気も良くなり 15:00 にはTシャツでも暑いほどの陽気になりとても気持ちがいい。快調に下っていたが、気がつくとも藤本とだいぶ離れてしまったらしい。一旦、見通しのきく中州に上陸して藤本を待つが、一向に藤本が流れてこない。沈をする

ような難しいところはなかったはずだが、心配になる。Carnacks がすぐ近くだったので Camp Ground に上陸して待つことにする。

19:30。しばらく待つがやはり藤本が下ってこないで、違う場所に上陸したかもしれないと街を一通り探すがいいない。22:00の通信を待つて音信不通だったら R.C.M.P. に駆け込もうと場所を確認してCGに戻ろうとするとところへ藤本と会う。藤本もいくらこいでもおれに追いつけないのでつきり沈したと思ひ、R.C.M.P. に駆け込もうとやめてきたという。藤本はおれの行動に大激怒しており、「これ以上自分勝手な行動をとるならここでコンビ解消だ！」と言う。姿が見えなくなるまで気づかなかったことは詫び、一応おれも藤本を心配して中州で待っていたことなどを話して理解してもらった。

今回のことだけでなく、藤本はこれまでのおれの行動に我慢に我慢を重ねてきたようで、それについても話し合い一応関係修復。CGにテントを張って、買い出しへ。Carnacks は酔っぱらったインディアンが多い街だ。

7/29

Off 13:00 起床。Village Office に行つてCGのPermissionを買おうとしたが「そんなものはいらない」と言われた。次にR.C.M.P.へ。おれはコピーをなくしてしまったので、藤本のみ提出。次にランドリーを探しシャワーを浴びたり、日本へ電話をかけたたり、洗濯をしたりする。洗濯していると酔っぱらったインディアンの男女が入ってきておれらにしつこくたかかってきた。し

ばらく断つてしていると男がトイレに入つて何か手にし、態度を変え詰め寄つてきたので、藤本が上のスーパーの店員を呼びに行く。

それで男女は逃げていったが、現地のインディアンと交流したいと思つておれらにはとても悲しいできごとだった。レストランで昼食。スーパーで買い出しをしたあとCGでくつろぐ。夕食を食べる頃にはCGは川下りをする面々で大盛況となる。

7/30

雨。二度寝して14:30起床。停滞。一日釣りや読書をして過ごす。

8/13

12:30、出発する藤本を見送る。雨が降つたりやんだりのはっきりしない天気。テントの中で読書。20:00ここで知り合った日本人2人にカジノに誘われいそいそと出かける。B1とルーレットで20\$を90\$にした。25:00、CGへ戻る。

8/14

12:00 起床。ランドリー、買い出し。出発の前準備。今日ついた日本人ツアーのキャンプに遊びにいつて夕食をごちそうになる。たいへん盛り上がり、夜中まで飲んでいるとなんとオーロラを見る！

8/15

9:00 起床。日本人ツアーの方々から余った食糧を大量に頂く。11:00 出発。時折雨が降るな  
かをこぎ進む。19:00、途中のキャビンはウルフがいっぱいいて近づけないので、少し行った  
中洲にテントを張る。22:00、24:00に交信するがつかならず。

8/16

10:00 起床。12:45 出発。快晴で暑い。14:00、Forty Mile 上陸。R.C.M.P の跡の廃虚を見る。Twin  
Eddy、Old Woman Rock、Old Man Rock 通過。16:00、やっと藤本と交信できる。  
16:30、合流。

8/19

8:30 起床。晴れ渡っていて雲もほとんどの天気だが、風が強く、刺すように冷たい。朝食、  
パッキング。11:30 出発。10分ほど流れて街に着ける。Post Office に行つて入国スタンプを押  
してもらい、郵便物を出す。入国審査なんてものはなく、ただ「どこまで行くのか」「いつ日  
本に帰るのか」聞かれただけだった。12:30 再出発。16:30、Seventymile River の上陸して釣り。  
根がかりしたルアーを無理矢理とろうとして釣竿を折り、リールもろとも川底に沈めてしまっ  
た。

18:00、Tantonduk River 上陸。キャンプ。藤本が20:00近くまで粘るが今日も釣れず。夕食を  
食へて23:00 就寝。

8/20

8:30 起床。12:00 出発。16:00、Nation River の上陸して竿を振るがあたりなし。17:30、Nation  
上陸。キャビンはなく砂地でキャンプ。おぼろげながらオーロラを見ることができず。

8/21

9:30 起床。12:00 出発。快晴。18:00、Kandik River の上陸。竿を振る。一度だけかかるが外さ  
れてしまう。1時間近く粘るがそれ以後は全くあたりなし。19:00 退散。対岸の Biedeman's  
Location 上陸。ユーコンを下る人たちのために開放されている  
小屋があり、そのなかにテントを張って寝たのでかなり寒さをしのげる。

8/22

9:30 起床。12:00 出発。だんだん風が強くなり、それに伴って波が大きくたちはじめる。Charley  
River で釣りをする予定だったが、まるで LAKE LABERGE の再現のような波でとても岸につけ  
られず、中洲に上陸して様子を見る。15:30、なかなか風がやまないのでここを天場に決める。  
23:00 就寝。



8/23

夜半から降りだした雨が続き、停滞。テントの中でバーナーを使って作るので夕食はスペシヤル研ちゃん。そのあと Yukon 杯の続き。24:00 就寝。

8/24

9:30 起床。朝方から冷え込み、猛烈に寒い。テントの中でも息が白い。11:00 出発。このころから晴れ間が見えはじめるが日が陰るとやはり寒い。18:00 上陸。22:00 満月の夜。遠くの山には雪がついている。重ね着できる衣類も残りわずか。靴下を2枚にして眠る。

8/25

9:00 起床。12:30 出発。風が強く波もあり、パドリングしてもあらぬ方向へ流される。それでもこいでいないと岸に着けられ、浅瀬に乗り上げてしまうので必死でこぐ。風が冷たく進みも悪いので17:30 中洲に上陸。23:30 就寝。

8/26

10:00 起床。12:30 出発。今日も風が強く、パドリングを余儀なくさせる。16:30 Circle 上陸。川沿いの R.V. Camping にテントを張る。寒さがきつくなってきたので小さい方のおれのテ

ントで2人で眠ることにする。テントを張り終わると R.V. Camping の隣にある Trading Post の Cafe へ。この小さい店は Grocery、Liquor、Gift、Post Office を兼ねている。店のおばちゃんにこの先の Fort Yukon まで下るつもりだが、Fort Yukon はどうか？と聞いたところ、難しそうな顔をしながら、「some は悪いが some はよい人だ。あなたたちは大丈夫だ。でも財布なんかは身につけていた方がよい」とうまく答えてくれた。

Telephone Box に行く。藤本が日本に電話しているのを待っていると、さつきから赤いスバルでここら辺をまわっていたおっさんに声をかけられた。彼は Kenai に住んでいる Kirth と行ってラジオの仕事でこの街に来たらしい。Fort Yukon について店のおばちゃんと一緒にことを言っていた。とても仲良くなって、一人に一瓶彼が釣り上げて cook したサーモンの脂漬けをくれた。23:30 就寝。2人で並んで寝ているがやはり寒い。寒さの為に爪先が痛くなる。

8/27

8:00 寒さのために左足が神経痛になる。10:00 まで足をもみほぐしながら二度寝すると大分よくなった。13:00 藤本が実家に連絡をいれ、Fort Yukon までいくことが決まり、ランドリーとシャワー。藤本が下にはくべきものをすべて洗濯してしまい、パンツ一丁で待っているときに女性が3人ほどランドリーにやってきて、決まり悪そうに笑いをこらえていた。Grocery Shop で食料品の買い出し。

24:00 就寝。

9/01

11:00 起床。手荷物のパッキング。15:20 出発。背にはカヤック、前にはバックパックを背負い空港まで歩く。ものすごい重さに肩がきしむ。20歩ぐらい歩いては休みながらいく。空港のおっさんといういろいろ話しをする。19:40 フライト。魔のユーコンフラットの全貌を見おろし、「よくこんなところを下ったなあ」とその大きさに今さらながら恐ろしくなる。20:30 Fairbanks 着。CG までタクシーで行く。7:11 でなつかしい都会の味を堪能しつつ、今後のスケジュールを練る。デナリに行くのは綱渡りになるのでアラスカ鉄道でアンカレッジに行き、カヌーの輸送とフライトの予約をすることにする。

24:00 就寝。

9/02

6:40 起床。眠い目をこすりながらテントをたたみ、パッキング。タクシーを呼んで7:40 駅に着くが、なんと今日の列車は予約が一杯でデナリまでしかいけないとのこと。仕方なく明日の予約を取り、8:30 の列車を恨めしく眺める。CG にもどって藤本は隣の R.V. Park でレポートを。おれは読書をする。

CG を通りかかったアラスカ大学に教授として招かれている日本人の女性ルポライターと知り合い、夕食を一緒にとる。

23:00 テントに戻る。

9/03

6:15 起床。タクシーを呼んで出発。駅で左目のコンタクトを落として割ってしまふ。チケットを買って荷物を預ける。8:30 出発。12:30 デナリ。車掌の女性がたいへんかわいくてそれだけでアラスカ鉄道に乗ったかいいがあった。Y.H に・してタクシーで向かう。Y.H は日本人だからでそれぞれの武勇伝や情報交換に花が咲く。

9/04

カヌー等を日本に送り、留守本部の佐藤さんに・報告。シアトルまでの航空ディスカウントチケットを買う。

9/05

ポータージ氷河バスツアーに参加。25:00 アンカレッジ発。US5:00 シアトル着。空港で仮眠して、ダウンタウンへ。バス時間等を調べ、ビクトリアへ。ビクトリアのY.H に泊。

9/06

レンタサイクルを借りて1日街を走り回る。おれはブッチャートガーデンに。夜のバスでバ

ンクーパーに。Vincent Back Packers Hostel 泊。

(一九九九年記)